

青少年教育指導者の養成・研修

ボランティア養成研修

ボランティア養成セミナー

1 ねらい

独立行政法人国立青少年教育振興機構のボランティアとして一定レベルの資質を確保するとともに、青少年教育施設におけるボランティア活動を推進し、その活動機会の拡充を図るため、法人ボランティアの養成を行う。

2 期日

平成28年5月27日（金）～29日（日）【2泊3日】

3 対象

15歳以上（高校生以上）

4 参加人数／募集人数

47名／100名

5 講師・スタッフ

金沢大学大学院教授 松本 謙一 氏

立山町消防本部職員 6名 富山大学救急医学勉強会 22名

法人ボランティア 5名 国立立山青少年自然の家職員

6 後援・協力

後援：富山・石川・新潟各県教育委員会、富山県キャンプ協会

協力：金沢大学、富山大学、富山国際大学、上越教育大学

立山町消防本部、富山大学救急医学勉強会

7 日程

	午前	午後	夜
5月27日（金） 1日目			開講式 講義「“体験”を通して学ぶ」 ※本館泊
5月28日（土） 2日目	実習「つどい体験」 実習A「野外ゲーム」「テント泊準備」 実習B「普通救命講習」	実習A「普通救命講習」 実習B「野外ゲーム」 「テント泊準備」 実習「野外炊事」	講義「自然体験と安全」 実習「キャンプファイヤー」 ※常設テント泊
5月29日（日） 3日目	実習「早朝ハイク」 実習「野外炊事」 講義「立少ボランティアとして」 講義「自然の家ってどんなところ？」	ふりかえり まとめ 閉講式	

※ 実習A/Bは、参加者を2つに分けて行った。

8 参加者からの感想

- 「100%の安全はないが、100%を目指している」という言葉が強く印象に残った。いかに、危険を取り除いていくかということをもっと勉強していきたい。
- 子供たちの小さな発見を、指導者は一緒に共感し「子供が見付けたことを、どのように次につなげていくか」ということが大切だと分かった。

9 成果

- 施設の規模や日程、活動内容などを考えると、50人前後の参加者でちょうどよいと思われる。また、救命医学勉強会メンバーの協力をもらった効果は大きい。専門知識が必要である救命救急が、本所における他の活動においても生かされるチャンスが増えるからである。
- 全活動を通じ、「参加者（たち）で考えること」「グループ間で考えること」をベースとした。前向きに取り組む参加者の意欲がたくさん見られたので、今後もこの考え方は継続すべきと考える。
- 先輩法人ボランティアの体験談は、参加者の心に大きく響いた。体験談を聞きながら、ボランティア活動への不安が小さくなり、ぼんやりと描いていた期待感がふくらんだと思われるからである。これからも、この活動内容は、ぜひ取り入れていきたい。

10 今後の課題

- 今後、本研修会は、NEAL指導者養成研修会との融合が予想される。よって、これまで以上に、日程や活動内容、参加費などを検討していく必要がある。

